

学生スポーツは毎年春に選手が入れ替わる。大学4年生は卒業し、新顔の1年生が登場する。学生生活の4年間は過ぎてみればあっという間だ。体育会の学生に限らないが、充実した毎日を送っていればなおさらだろう。

部活動の合同練習などで交流し、在籍年度が重ならなくても面識のある先輩、後輩は少なくない。同時期に寮生活や日々の練習で顔を合わせ、互いに励まし、またライバルとして刺激し合ったりすれば、その結びつきや関係性は一層深くなる。

夏に戻ったような暑さとなった10月19日、陸上競技部長距離ブロック（駅伝）チームが出場した箱根駅伝予選会を、「HAKUMON Chuo」学生記者と一緒に取材した。ともに寮生活を送る選手たちの絆は強い。彼らの総力で本戦出場の10位以内を目指す駅伝チームにとって、コロナ禍だった2020年以降の予選会だった。

「10 枠」をめぐる争いは熾烈だ。各校10人のハーフマラソンの合計タイムで競い、今回の10位、11位の大学はタイム差1秒で明暗を分けた。暑さが選手を苦しめたことも加わり、「本戦でシード権を確保し、中大は二度とこの場に戻らないでほしい」と今回も願いながら、出場権を獲得したことに胸をなでおろした。

箱根本番では毎年、9人がつないだ^{たすき}襷を肩にかけ、最終10区のゴールテープを切る選手の姿から、襷に込められた思いが翌年以降の選手たちに受け継がれていくことを思う。10区で終わりではなく、その先へとリレーが続くように感じるからだ。襷に象徴されるのは中大の伝統であり、駅伝チームの歴史である。

2023年までの4年連続など、中大は4年生が最終ランナーを務めることが多い。今度の箱根ではどの選手がアンカーを任されるだろうか。

（編集長 北村 豊）

【STAFF】

■取材協力：学事部、各学部事務室、大学院事務室、学生部、ボランティアセンター、中央図書館、国際センター、入学センター、キャリアセンター、学生会、経理研究所、学員会ほか

■写真提供&協力：「中大スポーツ」新聞部

■学生記者：近藤陽太（経済4）、堪山泰瞬（商4）、島田莉帆（文4）、影原風音（文4）、海老澤英奈（文4）、倉塚凜々子（国際経営4）、白井美有（国際経営4）、谷井花蓮（総合政策4）、大山凜子（法4）、高橋璃々（経済3）、合志瑠夏（経済3）、酒井優実（商3）、吉田未来（理工3）、三浦菜々花（国際経営3）、鈴木萌結（国際経営3）、北村結（総合政策3）、小西結音（総合政策3）、上原希成（国際情報3）、岡岡千聖（商2）、池田さくら（文2）、高橋来佳（文2）、木村結（法2）、松岡響紀（経済1）、渡木彩文（文1）＝順不同

■制作協力：株式会社トリッド

**Web版
「HAKUMON Chuo」は
こちらから閲覧
できます。**




**NEXT
ISSUE**

「HAKUMON Chuo」2025 早春号
No.284 2025年3月23日発行予定

2024 秋冬号 No.283
2024(令和6)年11月28日発行

発行：中央大学広報室
〒192-0393
東京都八王子市東中野 742-1



“学生記者”になりませんか？

Would you be
a student reporter?



（申し込み・問い合わせ）
中央大学広報室
「HAKUMON Chuo」編集担当
E-mail: hc-grp@g.chuo-u.ac.jp

**「HAKUMON Chuo」は
中大生が取材・編集する大学広報誌です。
現在、学部在学学生を対象に学生記者を募集しています。**

メリット
1

元新聞記者のプロや先輩の学生記者に、取材方法・原稿の書き方や、添削指導などを受けることができます。将来どんなキャリアを目指すにも文章力は重要です！

メリット
2

取材を通して、さまざまな人に会うことができます。出会いの数ほど思い出ができることでしょう。

メリット
3

記者活動を通して、コミュニケーション能力など社会に出て活躍するための基礎力を身につけることができます。



プロ野球ドラフト会議で指名された硬式野球部選手の記者会見＝2023年10月26日、多摩キャンパス